

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2021年11月9日

【四半期会計期間】 第76期第2四半期(自 2021年7月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 株式会社不動テトラ

【英訳名】 Fudo Tetra Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 奥田 真也

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋小網町7番2号

【電話番号】 03(5644)8500(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部財務部長 北垣 大輔

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋小網町7番2号

【電話番号】 03(5644)8500(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部財務部長 北垣 大輔

【縦覧に供する場所】 株式会社不動テトラ 北関東支店
(さいたま市大宮区吉敷町一丁目23番地1)

株式会社不動テトラ 千葉支店
(千葉市中央区富士見二丁目3番1号)

株式会社不動テトラ 横浜支店
(横浜市中区真砂町二丁目25番地)

株式会社不動テトラ 中部支店
(名古屋市中区栄五丁目27番14号)

株式会社不動テトラ 大阪支店
(大阪市中央区南船場二丁目3番2号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第75期 第2四半期 連結累計期間	第76期 第2四半期 連結累計期間	第75期
会計期間		自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高	(百万円)	30,938	32,309	72,308
経常利益	(百万円)	1,943	1,427	4,718
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,249	949	2,990
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	1,272	936	3,283
純資産額	(百万円)	27,682	29,199	29,687
総資産額	(百万円)	47,108	48,600	54,082
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	79.93	61.92	192.18
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	58.0	59.3	54.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	9,189	807	10,451
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,973	585	2,661
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	4,434	2,028	4,754
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	11,651	10,090	11,904

回次		第75期 第2四半期 連結会計期間	第76期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	42.31	42.93

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載していない。
3. 当社は第71期第2四半期連結会計期間より「役員報酬BIP信託」を導入している。当該信託が保有する当社株式を自己株式として計上している。また、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数は、当該株式を控除対象の自己株式に含めて算定している。
4. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっている。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書提出後、事業等のリスクに記載した内容から変更はない。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものである。

(1) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、売掛債権の回収が進み、受取手形・完成工事未収入金等が減少したことと前連結会計年度末に比べて5,482百万円減少し、48,600百万円となった。

負債は、買掛債務の決済で支払手形・工事未払金等及び電子記録債務が減少したことや借入金の返済により前連結会計年度末に比べて4,994百万円減少し、19,401百万円となった。

純資産は、当四半期純利益の計上があったものの、当第2四半期連結会計期間での剰余金の配当及び自己株式の取得もあり、前連結会計年度末に比べて488百万円減少し、29,199百万円となった。

(2) 経営成績の状況

建設業界においては、民間建設投資は、先行きの不透明感がぬぐえないものの、設備投資や住宅建設に回復の兆しが見られ、また、公共建設投資は、前年度の補正予算により底堅く推移しており、建設投資全体では持ち直す傾向となった。

当社グループの業績については、期首手持ち受注高は70,027百万円（前年同四半期比8.8%減）と高水準な状況が続き、また受注高が30,065百万円（前年同四半期比6.6%増）と増加したため、売上高は32,309百万円（前年同四半期比4.4%増）と増収となった。

しかしながら、営業利益は1,401百万円（前年同四半期比27.7%減）、経常利益は1,427百万円（前年同四半期比26.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は949百万円（前年同四半期比24.1%減）とそれぞれ減益となった。

（単位：百万円）

		前第2四半期	当第2四半期	増減
期首手持ち受注高	土木事業	62,467	57,342	5,125
	地盤改良事業	14,305	12,974	1,331
	ブロック事業	401	398	3
	その他	40	24	16
	調整額	429	711	282
	全社計	76,784	70,027	6,757
受注高	土木事業	10,174	11,649	1,475
	地盤改良事業	15,717	16,135	419
	ブロック事業	2,826	2,182	644
	その他	310	300	10
	調整額	834	201	632
	全社計	28,193	30,065	1,873
売上高	土木事業	16,113	15,794	319
	地盤改良事業	13,537	15,501	1,964
	ブロック事業	1,430	1,421	9
	その他	314	298	16
	調整額	456	705	249
	全社計	30,938	32,309	1,372
営業利益	土木事業	923	318	605
	地盤改良事業	673	937	264
	ブロック事業	310	101	209
	その他	23	20	3
	調整額	8	24	16
	全社計	1,937	1,401	536
次期繰越受注高	土木事業	56,528	53,197	3,331
	地盤改良事業	16,485	13,608	2,877
	ブロック事業	1,797	1,159	638
	その他	36	26	10
	調整額	806	208	599
	全社計	74,040	67,783	6,257

当該連結累計期間前に外貨建てで受注した海外工事で、当該四半期連結累計期間中の為替変動により、請負金額に増減があるものについては、期首手持ち受注高に反映している。

土木事業

受注高は、11,649百万円（前年同四半期比14.5%増）と増加したものの、売上高は、手持ち工事の進捗の遅れにより、15,794百万円（前年同四半期比2.0%減）と減収となった。営業利益は、主に工事採算性の改善が遅れたことにより、318百万円（前年同四半期比65.6%減）と減益となった。

地盤改良事業

受注高は、海外では引き続き新型コロナウイルス感染症による影響があったものの、16,135百万円（前年同四半期比2.7%増）と微増となり、売上高は、大型海上工事の進捗により、15,501百万円（前年同四半期比14.5%増）と増収となった。営業利益は、増収に加え、保有船舶の稼働率改善により937百万円（前年同四半期比39.3%増）と増益となった。

ブロック事業

受注高は、主力の型枠賃貸が災害復旧需要の一巡により、2,182百万円（前年同四半期比22.8%減）と減少したが、売上高は、商品販売での増収で型枠賃貸の減収を補い、1,421百万円（前年同四半期比0.6%減）とほぼ前期並となった。営業利益は、型枠賃貸の減収や固定費の増加により、101百万円（前年同四半期比67.3%減）と減益となった。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物の残高は、1,560百万円減少し、10,090百万円（前年同四半期は11,651百万円）となった。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少や、法人税等の支払があったものの、税金等調整前四半期純利益の計上や売上債権の減少等により807百万円の収入超過（前年同四半期は9,189百万円の収入超過）となった。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得等により585百万円の支出超過（前年同四半期は1,973百万円の支出超過）となった。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済、配当金の支払及び自己株式の取得等により2,028百万円の支出超過（前年同四半期は4,434百万円の支出超過）となった。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は328百万円である。

セグメントごとの内訳は、土木事業26百万円、地盤改良事業219百万円、ブロック事業83百万円である。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営戦略の現状と見通しに重要な変更はない。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営者の問題認識と今後の方針について重要な変更はない。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	27,255,910
計	27,255,910

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,489,522	16,489,522	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	16,489,522	16,489,522		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2021年9月30日		16,490		5,000		2,472

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,828	11.94
立花証券株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目13番14号	678	4.43
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	618	4.04
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 1 33 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内2丁目7-1 決裁事業部)	614	4.01
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレーMUFJ証券株式会社)	25 Cabot Square, Canary Wharf, London E14 4QA, U.K. (東京都千代田区大手町1丁目9-7 大手町フィナンシャルシティ サウスタワー)	442	2.89
日本製鉄株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目6番1号	406	2.65
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・サックス証券株式会社)	PLUMTREE COURT, 25 SHOE LANE, LONDON EC4A 4AU, U.K. (東京都港区六本木6丁目10-1 六本木ヒルズ森タワー)	403	2.63
日鉄鉱業株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目3番2号	341	2.23
不動産テトラ協賛会社持株会	東京都中央区日本橋小網町7-2	310	2.03
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) SUB A/C NON TREATY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	226	1.48
計		5,867	38.33

- (注) 1 上記所有株式数のほか、当社所有の自己株式1,185千株がある。
2 2021年10月14日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書に係る変更報告書において、エフィッシモ キャピタル マネージメント ピーティーイー エルティーディーが2021年10月8日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として当第2四半期会計期間末現在における実質所有株式数の確認ができないものについては、上記大株主の状況に含めていない。なお、大量保有報告書に係る変更報告書の内容は以下のとおりである。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
エフィッシモ キャピタル マネージメント ピーティーイー エルティーディー	260 Orchard Road #12-06 The Heeren Singapore 238855	1,746	10.59
合計		1,746	10.59

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,185,100		
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,024,700	150,247	
単元未満株式	普通株式 279,722		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	16,489,522		
総株主の議決権		150,247	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が200株(議決権の数2個)及び役員報酬BIP信託が所有する株式が89,200株(議決権の数892個)含まれている。
2 「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の自己株式40株及び役員報酬BIP信託が所有する株式が91株含まれている。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社不動産テトラ	東京都中央区日本橋小網 町7番2号	1,185,100		1,185,100	7.19
計		1,185,100		1,185,100	7.19

(注) 役員報酬BIP信託が所有する株式89,291株(議決権の数892個)は、上記自己株式には含まれていない。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第2四半期累計期間における役員の異動はない。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	11,912	10,098
受取手形・完成工事未収入金等	1 21,383	-
受取手形・完成工事未収入金等及び契約資産	-	1 18,054
電子記録債権	2,172	1,885
有価証券	500	-
未成工事支出金等	988	1,444
販売用不動産	546	404
材料貯蔵品	881	853
未収入金	1,327	1,217
預け金	1,463	1,144
その他	484	837
貸倒引当金	79	67
流動資産合計	41,578	35,870
固定資産		
有形固定資産	7,510	7,658
無形固定資産	1,266	1,260
投資その他の資産		
投資有価証券	1,880	2,235
その他	1,950	1,677
貸倒引当金	102	101
投資その他の資産合計	3,728	3,812
固定資産合計	12,504	12,730
資産合計	54,082	48,600
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	7,832	7,009
電子記録債務	6,298	4,504
短期借入金	2 1,020	2 456
未払法人税等	1,097	238
未成工事受入金等	2,283	2,661
賞与引当金	1,086	586
引当金	207	121
その他	3,154	2,155
流動負債合計	22,976	17,730
固定負債		
引当金	84	73
退職給付に係る負債	789	796
その他	546	804
固定負債合計	1,419	1,672
負債合計	24,396	19,401

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,000	5,000
資本剰余金	14,756	14,756
利益剰余金	10,684	10,698
自己株式	1,131	1,618
株主資本合計	29,309	28,836
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	190	160
為替換算調整勘定	156	162
退職給付に係る調整累計額	33	18
その他の包括利益累計額合計	1	20
非支配株主持分	377	383
純資産合計	29,687	29,199
負債純資産合計	54,082	48,600

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
売上高		
完成工事高	29,181	30,645
兼業事業売上高	1,757	1,664
売上高合計	30,938	32,309
売上原価		
完成工事原価	24,844	26,252
兼業事業売上原価	840	861
売上原価合計	25,684	27,112
売上総利益		
完成工事総利益	4,337	4,394
兼業事業総利益	916	804
売上総利益合計	5,254	5,197
販売費及び一般管理費	1 3,316	1 3,796
営業利益	1,937	1,401
営業外収益		
受取配当金	45	27
特許実施収入	6	13
その他	11	18
営業外収益合計	62	58
営業外費用		
支払利息	10	9
支払手数料	9	6
支払保証料	17	12
為替差損	10	0
その他	9	5
営業外費用合計	56	32
経常利益	1,943	1,427
特別利益		
固定資産売却益	-	5
特別利益合計	-	5
特別損失		
固定資産売却損	0	-
固定資産除却損	40	17
投資有価証券評価損	-	7
その他	0	-
特別損失合計	41	24
税金等調整前四半期純利益	1,902	1,408
法人税、住民税及び事業税	332	168
法人税等調整額	309	283
法人税等合計	641	451
四半期純利益	1,261	957
非支配株主に帰属する四半期純利益	11	8
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,249	949

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	1,261	957
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	10	29
為替換算調整勘定	0	6
退職給付に係る調整額	21	15
その他の包括利益合計	11	21
四半期包括利益	1,272	936
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,260	927
非支配株主に係る四半期包括利益	11	9

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,902	1,408
減価償却費	527	740
のれん償却額	-	39
貸倒引当金の増減額(は減少)	29	13
賞与引当金の増減額(は減少)	524	500
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	177	28
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	-	32
その他の引当金の増減額(は減少)	58	97
受取利息及び受取配当金	45	28
支払利息	10	9
売上債権の増減額(は増加)	9,724	-
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	-	3,616
販売用不動産の増減額(は増加)	-	142
未成工事支出金等の増減額(は増加)	571	456
仕入債務の増減額(は減少)	3,076	2,616
未成工事受入金等の増減額(は減少)	2,197	378
投資有価証券評価損益(は益)	-	7
未払消費税等の増減額(は減少)	113	1,347
未収入金の増減額(は増加)	18	109
預け金の増減額(は増加)	72	319
その他の流動資産の増減額(は増加)	187	352
その他の流動負債の増減額(は減少)	21	478
その他	23	6
小計	9,855	1,837
利息及び配当金の受取額	45	28
利息の支払額	9	8
法人税等の支払額	702	1,050
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,189	807
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の増減額(は増加)	500	500
有形及び無形固定資産の取得による支出	1,478	715
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	10
投資有価証券の取得による支出	1	391
会員権の取得による支出	-	8
貸付けによる支出	-	2
貸付金の回収による収入	4	5
その他	3	16
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,973	585

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	3,000	564
長期借入金の返済による支出	-	10
自己株式の取得による支出	502	497
自己株式の売却による収入	12	10
割賦債務及びリース債務の返済による支出	64	30
配当金の支払額	872	929
非支配株主への配当金の支払額	2	2
その他	6	7
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,434	2,028
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	7
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,783	1,814
現金及び現金同等物の期首残高	8,868	11,904
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 11,651	1 10,090

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(持分法適用の範囲の重要な変更)

当第2四半期連結会計期間より、株式取得をしたAdvanced Geosolutions Inc.(以下「AGI」という)を持分法の適用の範囲に含めている。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしている。

これにより、従来は工事完成基準を適用していた工事請負契約のうち、一定の期間にわたり履行義務が充足される契約については、履行義務の充足に係る進捗度を見積り、当該進捗度に基づき収益を一定の期間にわたり認識する方法に変更しているが、契約における取引開始日から完全に履行義務を充足すると見込まれる時点までの期間がごく短い工事については、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)第95項に定める代替的な取扱いを適用し、一定の期間にわたり収益を認識せず、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識している。また、履行義務の充足に係る進捗度を合理的に見積ることができないが、発生する費用を回収することが見込まれる場合は、原価回収基準にて収益を認識することとしている。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減する方法を適用している。

なお、この変更が当第2四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響はない。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形・完成工事未収入金等」は第1四半期連結会計期間より「受取手形・完成工事未収入金等及び契約資産」、前第2四半期連結累計期間の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に表示していた「売上債権の増減額(は増加)」は当第2四半期連結累計期間より「売上債権及び契約資産の増減額(は増加)」に含めて表示することとした。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っていない。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載していない。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしている。

なお、この変更が当第2四半期連結累計期間の連結財務諸表に与える影響はない。

(追加情報)

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(2020年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいている。

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はない。

(AGI社の株式取得の概要)

当社の連結子会社であるFudo Construction Inc.(以下「FCI」という)は、AGI社と2021年6月1日にAGI社の株式の一部を取得することに合意し、2021年7月1日に49%の株式を取得したことに伴い、AGI社は持分法適用関連会社となった。

なお、被投資会社AGI社の概要は以下の通りである。

商号(被投資会社の名称)	Advanced Geosolutions Inc.
主な事業内容	地盤改良及び関連エンジニアリング事業
持分法適用開始日	2021年7月1日
株式取得後の議決権比率	49%

当第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれている被投資会社の業績の期間

被投資会社であるAGI社の決算日は12月末日であり、連結決算日と3ヶ月異なっている。

AGI社に対する持分法適用開始日は2021年7月1日であるため、当第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書にAGI社の業績は含めていない。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
受取手形割引高	18百万円	- 百万円
受取手形裏書譲渡高	52	55

- 2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と貸出コミットメント契約を締結している。当四半期連結会計期間末における貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりである。

(1) 円建て取引

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
貸出コミットメントの総額	4,000百万円	4,000百万円
借入実行残高	600	-
差引額	3,400	4,000

(2) ドル建て取引

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
貸出コミットメントの総額	- 百万ドル	7.5百万ドル
借入実行残高	-	3.0
差引額	-	4.5

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
従業員給料手当	1,339百万円	1,408百万円
賞与及び賞与引当金繰入額	230	318
退職給付費用	61	60

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
現金預金	11,659百万円	10,098百万円
預入期間が3か月超の定期預金	8	8
現金及び現金同等物	11,651	10,090

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月19日 定時株主総会	普通株式	877	55.00	2020年3月31日	2020年6月22日	利益剰余金

(注) 2020年6月19日定時株主総会決議による配当額の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金6百万円が含まれている。

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項なし。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	935	60.00	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

(注) 2021年6月29日定時株主総会決議による配当額の総額には、役員報酬BIP信託が所有する当社株式に対する配当金6百万円が含まれている。

- 2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	土木事業	地盤改良 事業	ブロック 事業	合計				
売上高								
外部顧客に対する売上高	15,794	13,548	1,430	30,772	166	30,938	-	30,938
セグメント間の内部売上高 又は振替高	319	11	-	308	148	456	456	-
計	16,113	13,537	1,430	31,080	314	31,394	456	30,938
セグメント利益	923	673	310	1,906	23	1,929	8	1,937

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の保険等のサービス事業等からなる。

2 セグメント利益の調整額8百万円には、セグメント間取引消去31百万円、全社費用 24百万円、その他の調整額1百万円が含まれている。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	土木事業	地盤改良 事業	ブロック 事業	合計				
売上高								
外部顧客に対する売上高	15,647	15,148	1,388	32,183	127	32,309	-	32,309
セグメント間の内部売上高 又は振替高	147	353	33	534	171	705	705	-
計	15,794	15,501	1,421	32,716	298	33,014	705	32,309
セグメント利益	318	937	101	1,357	20	1,377	24	1,401

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の保険等のサービス事業等からなる。

2 セグメント利益の調整額24百万円には、セグメント間取引消去26百万円、全社費用 17百万円、その他の調整額15百万円が含まれている。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	土木事業	地盤改良 事業	ブロック 事業	合計		
一時点で移転される財 又はサービス	243	5,911	1,388	7,542	127	7,668
一定の期間にわたり移転される財 又はサービス	15,404	9,237	-	24,641	-	24,641
顧客との契約から生じる収益	15,647	15,148	1,388	32,183	127	32,309
外部顧客への売上高	15,647	15,148	1,388	32,183	127	32,309

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、グループ内の保険等のサービス事業等からなる。

2 収益認識に関する会計基準の適用指針第95項に定める代替的な取扱いを適用することにより、完全に履行義務を充足した時点で収益を認識している工事契約については、一時点で移転される財又はサービスに含めている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純利益	79円93銭	61円92銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,249	949
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	1,249	949
普通株式の期中平均株式数 (千株)	15,632	15,323

(注)1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載していない。

2 株主資本において自己株式として計上されている役員報酬BIP信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めている。

1株当たり四半期純利益金額の算定上、当該自己株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間857千株、当第2四半期連結累計期間1,167千株、このうち役員報酬BIP信託が所有する当社株式の期中平均株式数は前第2四半期連結累計期間101千株、当第2四半期連結累計期間93千株である。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月8日

株式会社不動産テトラ
取締役会 御中

有限責任あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前 田 貴 史

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 谷 川 陽 子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社不動産テトラの2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社不動産テトラ及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。